

令和7年第7回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和7年7月23日(水) 14時00分
- 2 閉会日時 同 日 15時12分
- 3 開催場所 市役所4階 入札室(大)
- 4 出席者 教 育 長 菅 野 恭 介
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世
委 員 荒 木 努

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	伊 藤 勝
市参事兼こども未来課長	上 坂 智津子
教育総務課長兼施設係長	松 本 富 美
学校教育課長	小 坂 卓 司
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	三 村 尚 彦
図書館長	桜 井 雄一郎
学校再編室長	中 井 孝 浩
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移ります。

- 6 付議事項

議案第26号 令和8年度使用教科用図書の採択について

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

- 8 質問及び討議の内容

議案第26号 令和8年度使用教科用図書の採択について

(学校教育課長の説明) 議案第26号令和8年度使用教科用図書の採択について別紙のとおり採択したいので、委員会の議決を求めます。資料の1から3ページにかけては採択根拠の概要がまとめてあります。1、2ページの大きな2番(1)は文部科学省の通知の一部を抜粋してあります。2、3ページについては兵庫県教育委員会の通知の抜粋です。おおよその内容につきましては、令和8年度の使用教科用図書は令和6年度に採択した、つまり今年度使用している教科書と同一のものを使うということが書かれてあります。ただし、特別支援学校及び特別支援学級での使用教科用図書は、そのとおりではないと規定されておりまして、その旨が1ページ②以下に記されてあります。

また、4ページ以下が北播磨地区の採択協議会で令和6年度に採択された教科用図書であり、令和8年度もこれを使用することになります。また、特別支援学校や特別支援学級で一般図書に使用される一般図書につきましては、一覧表の資料が膨大なものになりますので、今回は添付を省略させていただきました。

教育委員の質問と回答

- ・採択自体はもう法律で6年度の分を採択しなさいということで決まっているので何の異議もないのですが、1学期の計画訪問の中で授業をいろいろ見せていただきました。例えば中学校では資料集とか先生が作成されたプリントなどをたくさん使われて、それはそれで大事なことだと思うのですが、教科書からちょっと離れられているような授業もありました。子どもたちへ無償供与されたもので、大学教授や一般の学校の先生方が教科書作成を担当され、採択委員会でも本当にいろいろと研究をされて採択した教科書なので、先生方はそれにしっかりと基づいていただいてプラス子どもたちの実態に合わせていろいろな工夫をお願いできたらと思います。一方で、本当に時間がない中で申しわけないなと思うのですが、一つの大きな学習指導として、教科書を教えるのではなくて教科書で教えるということは重々承知なのですが、大事に使っていただけたらなというふうに思っているところです。

(学校教育課長の回答) わかりました。

(教育長の回答) なお、教科書につきましては教育委員会のほうにもございます。そして、毎年、北播磨地域の持ち回りで教科書の展示を行っておりますので、またそのときにはお知らせしたいと思います。

9 議決事項

議案第26号 令和8年度使用教科用図書の採択について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

別紙資料をご覧ください。

6月26日には、令和7年度市町村教育委員会研究協議会ということで、様々なテーマに基づいた研究協議会がありました。私はオンラインで参加しました。各市町村それぞれ様々な課題を持ちながら、教育委員会事務局、そして教育委員さんが一緒になって協力しながら、その課題の解決に向かっておられるなということがよくわかりました。それと同時に教育委員会の在り方についても、各府県市町村によっていろいろと異なる部分もあるなということもわかりましたので、良いところは取り入れていきながら、さらにいい加西市の教育を展開していければなと思っております。

6月27日には加西市教育振興基本計画第1回審議会を健康福祉会館で行っております。ここでも様々な意見をいただきまして、今後これを修正して良いものにしていきたいと思っております。

7月1日は臨時教育委員会を行いました。さらに、第1回加西市中学校部活動地域展開推進会議があり、部活動の地域展開に向けてPTAの代表の方、そして学校の教員等、様々な方に集まっていいただいて第1回の協議を行っております。加西市につきましては令和10年度に中学校の統合がございますので、そこで一つの大きな節目として地域展開をどのようにするかということをお見せできればと思っております。

7月2日には、社会を明るくする運動のオープニングセレモニーが行われました。また、統合中学校の開校準備委員会があり、中学校の基本設計等も見いただきました。新しくメンバーも変わり、それぞれフレッシュな顔ぶれで開校準備委員会がスタートしております。

7月3日はさわやか市民賞の授与式が行われました。

7月8日は短期留学、いわゆる国際交流の選定委員会を総合教育センターで行っています。結果としてはJTBにお願いすることになりました。

7月9日は定例校長会、その後、播磨東地区教育長会定期総会と教育長会議が行われ、県教委の方との情報交換等を行っております。

7月11日は第1回の社会教育委員会、総合教育センター運営委員会、更には、評価委員会が行われました。評価委員会のほうでは様々なご意見をいただきました。次年度に向けてできるところは修正しながら、よりよいものにしていきたいと思っております。

7月14日には、先ほど申し上げました短期留学のことにつきまして、JTBと打合せ

をしております。その後、市町村教育委員会教育長会議があり、市教委の働き方改革と申し上げますか、教員の教職調整手当の4%が将来的に10%に上がっていくという中で、教員の働き方をどのようにしていくかというようなことにつきまして、文部科学省からの話をオンラインで聞いています。

7月15日は善防統合小学校の開校準備委員会の打合せと教育委員連絡会を行っております。

7月18日は全国史跡整備市町村協議会の近畿地区協議会総会が行われました。玉丘古墳のように国の史跡のある市町村はこの会員になっておりまして、奈良県の天理市でそのことについて様々な意見交換を行いました。あわせて、他市町の教育長さんとも様々な情報交換を行いまして、非常に有意義な会議でありました。

7月22日には、令和7年度第1回史跡玉丘古墳群整備検討委員会があり、この玉丘古墳群を今後どのようにしていくかということで議論いただいております。

本日7月23日は午前中に決算審査があり、監査委員さんからいろいろご意見を受けたところでございます。

学校教育課長

1学期が終了しましたので簡単に学校教育活動について報告します。

今年度4月7日を始業式として始まった1学期は、先日7月18日に市内全ての小・中・特別支援学校で終業式を迎え、市内全ての学校は既に夏休みに入っています。ただ、小学校におきましては、今週教育相談を行っているところがほとんどですので、先生方は慌ただしく過ごされております。また、一方の中学校については部活動の東播大会がこの三連休で終わりました。県大会へ出場する部や選手はそれに向けて、東播大会で終わってしまった部については既に1、2年生の体制づくりが始まっています。また、先生方も部活動だけではなく校内研修等でも忙しくされております。1学期中、例年どおりの行事を無事に全てこなすことができました。また、日常の授業も着実にこなすことができていました。様々な学校の課題はあるものの、大きなトラブルはなく1学期を終えることができています。

教職員におきましても、昨年度のように想定を超えるような4月当初からの教員の不足ということに悩まされることもなく、比較的落ち着いたスタートが切れたことも幸いし、1学期間安定した勤務が行なえたことがよかったと思っております。また、今年度4月からは校務支援システムを変えました。4月当初は少しの混乱もありましたが、おおむね順調に対処することができて予想されていた混乱は最小限に抑えられ、今では既に使いこなしている状態になっております。そもそもは教員の業務改善、働き方改革の一環として新しいシステムに切り替えておりますので、今後これが本格的に動かせるようになることで、いよいよ教職員の業務改善につながっていくものと考えております。教育委員の皆様におかれましては、学校訪問等で様々な様子を見てい

いただきましたが、まだ計画訪問は続きますので2学期以降もよろしくお願いします。

教育委員の質問と回答

- ・校務支援システムが入ったということですが、1年間で大体何時間ぐらい残業時間が短縮できそうなのか予想の値はあるのでしょうか。

(学校教育課長の回答) 今はまだそこまで具体的な数字は計算していません。

- ・システムを変える前に「現状からするとこれぐらい時間が短縮できる」ということを考慮した上でシステムを入れたのかと思ったのですが、そこまでは難しいでしょうか。

(学校教育課長の回答) 具体的な数値までは出していないのですが、ただ加西市だけではなくて県下一斉に今は全員が月当たりの超過勤務時間を80以内に収めること、それから次の目標としては45時間以内に収めることを目標に取り組んでいますので、まず我々、加西市の職員もそれを目指すところかとは思っています。

- ・具体的にどういう項目から取り組んでいっているのですか。

(学校教育課長の回答) 校務支援システムに関連して言えば、紙を使う機会をぐっと減らしましたので、それでいろんなことが短縮されると思っています。出張等についての報告も紙に書くこともありせんので、その辺りも教師の授業以外の業務はかなり縮小されるのではないかなと思います。

- ・先生が多い、少ないというところで、少し差は出てきますよね。

(学校教育課長の回答) そうですね。全く同じとは言えないと思いますが、単純に多いから忙しい少ないから忙しくないというわけではないと思います。

- ・昨年度まではペーパーを使っていたが、今年度からは使わなくなったので、何か比較できる材料か何かで、データを出してみたらどうなのかと思いますが。

(学校教育課長の回答) 去年の超過時間の勤務の記録はありますので、今年のものと比べることは当然できます。

- ・そこから入って行って、たとえ10分、20分でも、ちりも積もればですから去年より短縮できたらいいのかなと思います。取りあえず去年と比較しながらデータを出されたほうがいいのではないのでしょうか。私の会社でも新しいシステムを入れたら、前年度と比較しながらデータを出して、そこからどう改善をしていけばいいかという検討をしています。それをしたほうがいいと思います。

何か一つ焦点を絞ってもいいので、例えば1人が1日10分、20分短縮できたら、オーバーに言って200日としたらそれだけでも2,000分ぐらい短縮ができるということだから、数字で書かれたら「わあ、すごいな」ということになります。比較すれば、そこから来年につなげて、「今年のシステムでは、これだけ短縮できた。次、来年に向けて、ここはだめだったからこう改善していこう」というふうにやっていったほうがいいと思います。私の会社でもそういうふうにししながら、職場の改善をどうしていったらいいかというのに力を入れているので、取りあえずデータを取ったほうがいいと思います。期待しています。

(学校教育課長の回答) まずは去年との比較をきちんとします。

- ・例えば二、三か月後ぐらいのデータとして、去年よりこの期間でこれだけ短縮できたというのは出せるのですか。

(学校教育課長の回答) はい、月比較では出せます。

- ・それを来月から期待しています。一番は誰もが残業を減らしてやっていっていただけたらと期待していますので、よろしくお願いします。

(教育長の回答) この校務支援システムでの残業の比較はちょっと難しいこともあります。教員が事務的な作業で使わなければいけない時間と教材研究等の準備のために使わなければいけない時間というのがあって、例えば校務支援システムで30分短くなっても、教材研究のために30分長く取ると、最終的に一緒になってしまいます。だから、これは私の個人的な意見ですが、単純に先生方に簡単なアンケートでいいので、例えば習慣的に見てどれぐらい短くなったと感じているかを答えていただくようなものがあれば、そちらのほうが現実には合っているかと思います。私も元教員ですが、短くなったから、その分帰るのが早くなるかというと、案外そうでもないというのはあるかと思います。それは教員によっても多分違うので、全体的な時間で減っていけば一番いいというのが、まず一つです。

そして、これも前回の文部科学省の説明会のときに言われていたことで、実際にどう扱うかというのは今後大きな問題ですが、文部科学省の見解としては教員の勤務時間の中には、自己研鑽の時間は入れないということです。例えば教員が学校に長くいたとしても自主的に研修している時間というのは、これは勤務を命じているわけではないので、入れないということです。そうすると、本来の必要な事務作業等をしている時間というのは、実際にはさらに減りますね。でも、それはどこまでがそうなのかというのを探すのは非常に難しいので、見解としてあっても実際に現実的な運用は難しいのかなとは思っています。

教員にとってはどちらかというと、事務的な作業が重なってきて教材研究ができないというのが非常にしんどいところなので、そこは全体としてうまく見られたら

というふうに思っています。ですので、今言われたように校務支援システムを入れることによって、例えば旅行命令いわゆる出張は全部パソコンで処理できるわけですから、紙に書く必要はなく承認も全部簡単にできるので、管理職も含めてその時間は短くなるというのは明らかに言えるかと思うので、具体的にそういう機能によって短くなる分について、聞いてみるのもいいかなとは思っています。

- ・今はすごく暑いのですが、体育館の使用等について何度になったらもう使わないというようなデータはありましたか。

(学校教育課長の回答) WBGT 計をきちんと置いていますので、それが 31 を越えたら基本的にはしないことになっています。ただ、大型扇風機などを回して空気を動かしながら、体育館は使っています。

- ・コロナのときに買った大型扇風機がまだ役に立っているのですね。

(学校教育課長の回答) それはもちろん使っています。運動場はミスト式の扇風機も使っていますし、休憩するときしか使いませんが、あるものは全部使っています。

- ・ほとんど体育館は使えないですね。

(学校教育課長の回答) でも、比較的そこまでは今、上がり切っていないです。

- ・早くクーラーを入れないといけませんね。

(教育長の回答) そうですね。WBGT は湿度も関係があるので、気温が三十三、三十四度になっていても、湿度が低ければ WBGT の 31 は越えないです。扇風機を回して空気が動くことによって、そこの指数はクリアできるということもあります。ただ、もっと上がっていったらもう無理です。エアコンはできる限り早く入れなければと思います。

- ・去年から暑い中で新たな熱中症対策というのは、何か検討されていますか。

(学校教育課長の回答) 中学校の部活動については、WBGT を測るのを徹底させています。小学校は特にプールの時間は 2 時間目になると暑いので、ほとんどの場合時間割を入れ替えて 1 時間目にしています。ランドセルも暑いのでリュックサックのようなものでもいいと言っている学校も割と多いですし、帰る時間を少しずらして一斉に帰るようにさせたりしている学校もあります。

- ・夏休みに PTA 主催のプールが小学校でありましたね。私たちのときは毎日プールに行っていましたが、それはもうなくなりましたか。

(学校教育課長の回答) なくなって 5 年ぐらいたちます。

- ・あれも危険ですものね。

(学校教育課長の回答) そうですね。暑い中で危ないです。

- ・先生はノータッチですからね。プールの真ん中にサンスイミングの先生を入れてしましたね。それはなくなりましたか。まだ 10 月ぐらいまでこの暑さは続きそうな気がします。ほかに現場が暑さで困っていることや改善してほしいことはありますか。
(学校教育課長の回答) 今はいろいろ工夫しながらやってもらっているので、何とかしのげています。最近、暑さと同時に雷もよく鳴るので、帰る時間をずらすというのもやっています。そういう安全面では夏の間はいろいろと気を遣うことがあって心配はしますが、取りあえず小学校は夏休みに入ってご家庭に帰していますので何とかなっています。中学校については、部活動は安全を十分に徹底させることです。

- ・今年だけでも問題点を洗い出して、話だけで終わらず、来年に生かせるようにしていただきたいです。私たちも現場からのいろいろな意見を聞きたいので言っていただけたらと思います。引き続きよろしくお願いします。

- ・さっきの働き方改革についてですが、文科省の教育調整手当の話ということだったのですが、学校単位で何とかされるというよりも教育委員会全体として取り組んだほうがいいと思います。特性上、学校というのは、学校でそれをできる場所もあるし、戻ってしまうところもあるし、そのままつながることもあるけれども、なかなか難しいのではないかなと思うので、業務改善と働き方改革に関しては、教育委員会の措置から見てほしいなというのが正直なところではあります。

(教育長の回答) 現実的なことを言えば、例えば小学校であればいろいろな問題がなければ、働き方改革をそれほど進めなくても担任は遅くならないです。ところが、子どもが非常に多い学校で、しかも何かいろいろなトラブルがしょっちゅう起っていると、授業が終わったら今度その解決を行って、勤務時間外に教材研究をするというサイクルになってしまいます。先ほどまでの事務作業が短くなれば一番いいと私は思うのですが、結局、学校の中の実態によってそれだけでなかなか済まないことがあります。

直なところある先生に言われたことですが、「働き方改革するためには、とにかく落ち着いて授業ができるようにしてほしい」と、「いろいろな問題が起こらないような対策を考えていかないと解決にならない」というような意見もいただいたので、そこも含めてどうしていけばいいのかを考えていかなければいけないと思っています。常にいろいろなことが起こっている学校では、教員の帰りはどうしても遅くなります。さらに、中学校の場合は部活動の時間の後に教材研究であるとか、保

護者の対応や不登校の家庭訪問であるとかを行っていますので、そもそもそこを何とかしないと無理だと思っています。それも合わせてどうしたらいいのかを考えていかないといけないですし、現実の教員の一日のスケジュールの中で何をどうすればいいのかを見ながら、考えていかなければいけないと思います。

- ・各先生の1週間の日程を書いてもらって、それを解析するというのはできないのですか。先生に書いてもらって、「いや、これはむだなのではないか」というようにすればいいと思います。

(教育長の回答) 私がこれは難しいなと思うのは、そうすることが働き方改革に逆行してしまうということです。

- ・私も残業が多かったときに、職場に上の方が入ってきて取りあえず例えば10時から11時はここをやったというのを全部書かされました。これをして今の残業はほとんどなくなりました。人を増やすということは難しいかもしれませんが、スタートから帰るまで取りあえず1週間だけでいいからやったことを書いてもらって、そこから解析されたら、教材研究はしないといけないかもしれないですが、もしかすると1週間のうち2時間くらいは「これはむだなのではないか」というのがわかるのではないかと思います。システムと同時にやったらダブルの効果ですね。

- ・私の経験から見てもなかなか難しいと思います。例えば産業医レベルの100時間近くになるという人に対して本当に見直しして、どこかで何とか解決できるような方法はないかということでできるかもしれませんが、全員に1週間と決めてするというのは少し難しいかと思います。

- ・例えばある大きな学校で一番残業が飛び抜けて多い人を選んで、ずっとではなく3日でいいから校長先生からやってもらったらどうかと思います。そうしないと見えてこない部分があると思うのです。一番よく残業している人のデータを見ながら、ほかの人のも見て改善していけるのではないかと思ったのです。効果があるかはわかりませんが、一回やってみてはどうですか。

(教育長の回答) 難しいなと思うのは、自分の教員の経験でもそうですが、例えば次の日の教材研究をしたいといって残っているときに「もうこの時間だから帰いなさい」と言われたら、教材研究はできないのです。それだったらもうちょっと残らせてもらってほしいと思うのです。

その昔、教員の働き方改革についてアンケートがあったのですが、そのアンケートの中で一番負担感が大きいのは事務作業でした。逆に教材研究に関しては全然負担感がないのです。だからといっていくらでもしなさいというわけではないのです。

が、そこはもう少し業務の特殊性を考えないといけません。

加西市教育委員会は（他市に先駆けての校務支援システムの導入など、働き方改革に頑張っているのに）全然その気がないと思われるのはよくないことなので、きちんと向き合ってはいかないとはいけません。どういう形でしていくかは、先生方の声を聞きながら考えるべきだと思います。今回の校務支援システムはまさにそうですが、その部分についてはまた聞いていきたいと思っています。

- ・月、水、金の3日だけでもいいので、校長先生が「ちょっと悪いけど、9時から始めた報告書を何時までやったのか簡単でいいから書いておいてくれませんか」とか言いながらやっていったらおのずと見えてくるかもしれないので、やってほしいなと思います。やってみて意見を聞きたいと思っています。もう討論していても始まらないと思うので、たとえ1日でもいいので、データを取りやすい先生で一回やってみたらと思います。うちの会社でもそうでした。常に残業をしていたら会社から全部書かされました。

そういうのがあれば、本当に「これはむだかもしれない」という作業があるかもわからないし、データを取らないとわからないのですが、それをやるだけでも、80時間残業のあった先生が70時間になったというような目標を、まあ数値化の目標はどうなのかわからないですが、やってみたらどうかと思います。取りあえず校務支援システムに期待しています。

市参事兼こども未来課長

夏季学童の入園決定状況についてお伝えします。資料は7月17日現在の状況で夏休み中については現状このような状況で、北条東につきましては1年生でも待機の方がいます。できるだけ夏季学童保育を使っていただけるように、ご家族や保護者の方に送迎をお願いしてほかの地区の学童に行っていただいた方もいらっしゃいます。今後、また状況を見ながら、できるだけ待機者が少なくなるように考えていきたいと思っています。

教育委員の質問と回答

- ・学童保育園とは違う質問なのですが、こども園のほうでもこの大変暑い中で熱中症対策を何かされていますか。

（市参事の回答）こども園でも夏場は外で遊ぶのがほとんど難しい状況にはなっていますが、水遊び、プールの時間をできるだけ早くして、気温が上がる前に入ってもらうようにしています。また、こども園の子どもたちはまだ自分で水分をしっかりとることができないので、特に外遊びの前後、水分を飲むように指導をしています。

また風を通す遮光性が非常に高いテントを設置して、遊ぶなど工夫しながら、屋内だけではストレスがたまるので、時間を見ながら外で遊ぶ時間も作るようにしています。

- ・ミストシャワーは、こども園にはないのでしょうか。

(市参事の回答) 熱中症リスクの高い低年齢の子どもたちですので、中で遊べる工夫をしているというのが現状です。

- ・外は9時から10時の間と限定しているのでしょうか。

(市参事の回答) 今年は特に気温が高くなる時間が早く、そのくらいの時間を過ぎるとなかなか外は熱中症リスクが高くなると聞いています。

- ・こども園だったらお遊戯室に行けばクーラーが効きますよね。子どもたちはずっと中にいると「外でもっと遊びたい」と言う子もいるのではないですか。

(市参事の回答) 熱中症予防の観点から、室内でも飽きが来ないように体を動かす遊びを取り入れるなど工夫をして過ごせるようにしています。

- ・本当に外で遊ぶのは、例えば10時だったら10時で完全に切って、外遊びはもうやっていないのですか。

(市参事の回答) 指数もありますので、指数が低いときは外に出たりしますが、ただ、今年はそういう指数が低いときがお昼の時間帯にはないと聞いています。

- ・この対策をしていたら今のところ熱中症になるような幼児はいませんか。大丈夫ですか。

(市参事の回答) 園の先生方は水分補給など予防にはかなり気をつけていることもあり、今のところそのようなことは聞いておりません。

- ・わかりました。先生の働き方改革は大丈夫そうですか。厳しいものはありますか。

(市参事の回答) こども園の場合は、工夫して会計年度任用職員の方を保育教諭として時間で入れています。今はそうして時間で来ている方や保育補助の方にご協力いただいているので、例えば育休もしっかり取れるように、時短の方もしっかりと時短が取れるようにしており、今後も継続したいと考えています。

- ・保留で待たれている方というのは、ほかの学童を勧めても行かないということですか。理由はどういうことが多いですか。

(市参事の回答) ご家族で(お子さんを)見ていただける方がいらっしゃる場合など

と聞いています。

- ・他の学童に行きたくないからではなくて、どちらかというとなんか理由ですか。
(市参事の回答) もちろん行きたくないから誰かにお願いされたのかもしれませんが、特に低学年の子どもたちは、保護者以外で誰か見ていただける方がいらっしゃるという状況であると確認しております。

(教育長の回答) 北条東学童につきましては、今年度には難しいのですが、次年度までに新たに学童室を整備し、広げて、今ある状況に対応したいと考えています。

- ・各小学校区域に学童はありますが、例えばどこそこの学童には加西市全体から来られるという形での運営はできないのでしょうか。

(市参事の回答) 休暇中は保護者が送迎をされますが、学校があるときに関しては、学校が終了しますと、学童の支援員が学校まで迎えに行き、一緒に学童まで行っています。そのようなこともあり規定の中で自分の小学校区の学童ということをお願いしております。

- ・例えばそこの学童に行きたくないとか、そこでのトラブルを含めていろいろあったときのために、加西市全体でどこかというのがあればと思います。要は、各小学校区の色がつかない状況での運営というのがそもそもできるのか、その辺を知りたかったのです。

(市参事の回答) 今のところ保護者はお仕事があつて子どもさんを預けられているという状況なので、迎えに行き別な学童に送迎というのは難しいと思います。ただ、公立でない学童が市内にもあり、そちらについてはバスでお迎えに行かれて預かっているということを聞いていますので、運用の方法などで変えられる点があれば、検討していければいいと考えています。

- ・学童支援員や学童で面倒を見る先生は、教員免許など、持っておかないといけない資格はありますか。

(市参事の回答) 特に資格というのは必要ありません。資格を有していない方も来ていただくことができます。

- ・ということは、加西市であふれた待機保留の児童は、結局は預ける場所とそういう人がいたらできないということはないですね。

(市参事の回答) 検討していく必要はあるかと思います。

(教育長の回答) これは市全体の問題として考えていかないといけないかなと思います。

学童保育が本当に難しいと思うのは、北条は増えていっているとはいえ、ほかの地域は全体的に減っているのですよね。それから、学校の統合もありますので、そういう中で学童の適正な配置というのを考えていかないとはいけません。それぞれの小学校区の中で学童を整備していくということが一番理にかなっているとは思っています。ただ、現実ではなかなかそこまで変化に追いついていないというのが現状です。

- ・ 来年度のことで、泉が統合小学校になったとき今の人数でいくと 100 人ぐらいの数になるのですね。例えば泉小学校の学童施設を使って夏休みだけ分散で現在の施設も使うとか、どういう考えでいらっしゃるのでしょうか。

(市参事の回答) 人数が増えるので学校改修後どのように運用するかということも検討していかないとはいけないかと考えています。

- ・ 少し確認ですが、例えば7月なら北条と北条東二人ずつの保留になっていますが、保留に今なっている子は親がどこかの学童へ入れているということですか。

(市参事の回答) 保留の方は空きを待ちながら、ご家族や親戚に見ていただいているということで、学童自体をご利用されていない方です。ほかに北条や北条東を希望していただけれども、他の学童に行かれた方がいらっしゃいます。

- ・ 公民館は見てくれないのでしょうか。

(生涯学習課長の回答) 申し訳ないですが、支援員もおりませんので無責任に預かることはできません。

- ・ 改修するにはすごくお金がかかりますが、免許を持たなくてもできる支援員を雇うお金だったら、少しはそこで。

(市参事の回答) 支援員も何とか充当しているという状況で、特に夏季は募集をしながら調整を継続している状況なので、場所もそうですし、人材もかなり大変な状況であります。

- ・ 各地域の人に募集をかけると、おじいさん、おばあさんは出てこられないでしょうか。

(教育長の回答) 学童保育は、本当に大変です。だから、支援員の方には頭が下がります。学童保育で、子どもたちを1日預かるというのは、ものすごく気力と体力が要ります。怪我のこともありますし、単純にただ子どもがそこにいるのを見ているだけでは当然、済まないです。(学童支援員の確保について) どうその活路を見出していくかというのは、考えていかなければいけないと思います。

- ・その学童で私は思ったのですが、支援員の方を支援する仕組みというのは、何かしているのでしょうか。

(市参事の回答) 現在、学校の先生を定年した者を学童保育の統括として配置しています。午後からは学童を巡回していただいて、課題等があればそれを解決していただいています。また毎月1回は学童支援員代表の連絡会を開いて課題共有をするなどしています。

(教育長の回答) 学童の毎日の報告書があります。また機会があればそれを見てください。支援の緻密さがよくわかります。

生涯学習課長

文化財の登録について、説明します。今年7月18日付で西剣坂町に所在しております旧高原家住宅の奥座敷と中座敷の2棟が、新たに国登録有形文化財に登録されました。奥座敷は明治22年建築の入母屋造りで床と床脇に天袋つきの清楼棚、付書院を備えて、室境には四君子の透かし欄間を持っており、中座敷は明治42年建築の入母屋造りで、奥座敷の北東に接続しています。床柱に赤松の丸太を用いるなどこだわりが見られます。両座敷は池泉鑑賞式庭園に面しており、庭園と一体になって開放的な文人好みの数寄屋空間を形成しております。この奥座敷の改修と中座敷の建築を行った高原重太郎氏は加西銀行の頭取や播州鉄道株式会社の取締役などを務め、北条支線の敷設に尽力した人物としても知られています。後ほどお配りした資料をご覧くださいと思いますのでよろしくお願いいたします。

教育委員の質問と生涯学習課長の回答

- ・加西市にこういうところがあるというのは、全然知らなかったです。現在も誰かお住まいなのか、また、管理はどういうふうにされているのか、見学等が可能なのか教えていただけたらと思います。

(回答) このたび登録になった奥座敷、中座敷と同一敷地内の別の建物にお住まいです。見学していただくことは可能ですが、個人住宅ですので、いつでも見学していただけるわけではありません。事前に生涯学習課に連絡をいただいたら、所有者さんにアポを取らせていただきます。

所有者さんは今後この住宅を広く知っていただき、たくさんの方に来ていただきたいとの思いを持っておられます。お時間のある時にでも、ぜひ、実際に足をお運びください。

- ・そういう機会をいただいたら、ぜひ行かせていただきたいと思います。

学校再編室長

善防中学校区の統合小学校第1回開校準備委員会について報告します。7月31日木曜日19時から善防公民館で開催します。今回の協議事項は3点あります。まず、1点目に学校名の選定、募集について、ご意見を伺おうと考えております。2点目はスクールバスについて、まだルート等詳細なところまで決まっておりませんが、泉小学校と同様に登校班の集合場所から2和以上を対象としてスクールバスを走らせたいと考えております。3点目は体操服についてご意見をいただこうと考えています。

次に、夏の熱中症対策のバスについて報告します。今年度より登校班の集合場所から3和以上を対象に、7月1日から9月22日までの予定で小学校の遠距離通学児童支援ということでバスを走らせております。運行につきましては大きな問題もなく1学期は終えております。ただ、今回3和以上で線引きをさせていただいておりますので、保護者からは特に2和から3和の間でなぜ乗れないのかというようなご意見を多数いただいております。また、登校班の集合場所を基準にしておりますので、同じ町内でも乗れるところと乗れないところも発生しております。そちらのほうからもいろいろご意見をいただいておりますので、また来年度以降に検討したいと考えております。

教育委員の質問と回答

- ・今、3和という規定になっているのですが、これを来年度から2和にしたらおおよそ何人ぐらい増えるのでしょうか。

(学校再編室長の回答) 今年度は対象が108名なのですが、来年度は泉が統合しますのでそれを除けば、人数的には300人ぐらいになると見込んでいます。

- ・1.5倍ぐらい増えるのですね。もうちょっと増えるのかな。

(学校再編室長の回答) 約3倍になります。108人なので、仮に来年度は2和にしたら300人ぐらいになるのではないかと考えています。別途、通年で走る泉の小学校は200人ほどが対象になっています。

- ・ここは根拠をしっかりとしないといけませんね。以前、小学生の何年生までは体育の時間がこれだけ耐えられるという体力から考えて、体力的に歩いて登校できるのは2和ということで根拠をつけて、夏スクールバスを走らせていたような気がするのですが、そういうふうな根拠、これを基にこの距離でというのはありませんか。

(学校再編室長の回答) 文部科学省の基準は4和となっています。

- ・コロナの時で夏場のスクールバスを出したときには、たしか「体育での体力的なこ

とを考えるとこの距離までなら大丈夫だから、2和にしましょう」というようなことを言っていたように思います。あのときのような説明ができればいいのですが。
(教育部長の回答) 今回の3和といたしますのは、2和にすると300人を超える人数に増えますので、現状のタイムスケジュール、バスの台数、運転手の確保できる数、その中で考えると3和までが実現可能な距離の設定になると思います。

- ・親が納得できるようなのがあればいいのですが。

(教育部長の回答) 今回、たくさんご意見をいただきましたので、来年は、様々な方法を検討していかないといけないと思います。

- ・取りあえず今年は意見を聞いてですね。

(教育長の回答) 今、泉の統合小学校は2和にしているのですが、当然それは一つの大きな基準になってくると思います。今後どうするかということはまだ決まっていないのですが、今、言いましたように次年度に向けて何らかの対応は考えていく必要があると思っています。

- ・徒歩通学、集団登校の良さというのはあると思っています。ですから、なかなか難しいとは思いますが、徒歩での登校の良さも議論の中に入れていただきたいなという思いがあります。保護者の中でも恐らくそういう認識を持っている方も多いと思うので、単純にバスだったら絶対にいいというわけでもないと思うのです。その辺も加味しながら検討していただければいいかなと思います。

- ・本当に3倍に膨れ上がるという中、もう一方では予算の話もあるので、来年はもっと今年よりも暑くなる可能性もありますが、例えば朝、気温が低ければ朝は徒歩で来て、帰りは2和以上の人は送りますということも一つの考え方だろうと私も思います。一方で、泉では2和以上は朝晩というような形になるので市内でちょっと不統一ができます。その辺りも含めて総合的に考えていただけたらありがたいなと思います。

また、最初にバスが走り出したときに九会で聞いたのですが、想定したルートと違う方向からバスが来たというトラブルがあったと聞きました。それはもう初日だけだったみたいですが、普通だったら左側から乗り降りできるのに、バスが逆から来たものだから道を渡って乗ったということがあったと聞きましたので、また運転手さんとも入念な打合せをしていただいて、お願いしたいなと思います。

- ・開校準備委員会の件ですが、泉が統合するときの運営は印象的に、大きな問題もなくとてもスムーズな運営に大変努力されていたと思います。今後、善防の統合小学

校の準備委員会をするときにも、多分泉のやり方を踏襲されると思いますが、もし善防特有の考え方とかがあれば、その辺は柔軟に対応していただければと思います。

- ・開校準備委員会の保護者代表者は、今の PTA 会長さんあるいは副会長さんですか。

(学校再編室長の回答) 小学校もこども園もそれぞれの PTA からご推薦をいただいた方になっています。

(教育部長の回答) 今回はこども園からも保護者の方に多くお入りいただいております。

- ・地域代表者は区長さんか誰かですか。

(学校再編室長の回答) それぞれの区長会からご推薦をいただいた方です。

- ・アンケートを出したりするのであれば、賀茂のデータと下里のデータはできたら一緒にしないように注意しておいたらいいと思います。泉の開校準備委員会のときそこが一番もめたところだったと思うので、賀茂は賀茂、下里は下里と分けてとおいたほうがいいのではないかと思います。アンケートに賀茂か下里を選べる欄を作ったらいいですし、あとはできるだけ回答率をアップさせるようにされたらいいと思います。

1 1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

なし

1 3 今後の予定について

- ・令和7年第8回定例教育委員会 8月18日(月) 14:00～多目的ホール
- ・令和7年第9回定例教育委員会 9月26日(金) 14:00～多目的ホール

1 4 その他

なし

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和 7 年 7 月 23 日

出席者

(出席者署名)